

より良き未来を日ざして

原 正

この四月から学長職を勤めさせていただいておりますが、すでに半年あまりが経過いたしました。就任後の実務を通して、その職責の重さをひしひしと身にかけている昨今であります。とくに去る六月八日未明に起こった新島襄先生の墓碑破損の一件は、まことに痛恨の極みで全同志社人になんとお詫び申しあげたらよろしいかその言葉もございません。このような不祥事を起こさせてしまった自分の至らなさを深く反省するとともに、今後の教育を通じ新島先生の理想に少しでも近づけるよう努力してまいりたいと念願しております。

さて本年三月二十七日に田辺キャンパスの竣工式が行われ、続いて四月からは大学の一、二年次生の講義を同時に田辺で開講し、今日に至っております。新しいキャンパスではじめての講義でしたが、幸い教職員各位の並々ならぬご尽力により、順調なすべり出しができました。なによりもありがたいことと感謝をいたしております。開校直後には学生諸君の間にも戸惑いに似た気持があったようですが、しばらくするうちに「こんなすばらしい教育施設が田辺校地に誕生していたとは知らなかった。同志社大学へ入って本当によかった」というような声も、しばしば聞かれるように

なりました。この広大なキャンパスにみなぎる若人の学問や課外活動にかける情熱とはなやいだ語らいを見聞するにつけ、「本当によかった」と思わずにはいられません。昭和四十年にはじまる田辺校地の取得から今日に至るまで、田辺事業に参画された歴代総長・理事長・大学長をはじめ、同事業に直接あるいは間接に協力された各位のご苦労に心から感謝を捧げる次第です。

ところで「私立大学には変つてはならないものと、変らなくてはならないものがある」とは、よく言われるところであり、私もそのように思っております。同志社大学の場合、前者は建学の精神であり、後者は学問の進歩や時代の変化に適應する教学面での改革でありましょう。したがって今後私達の努力すべき主目標も、この二つに集約されるように思われます。しかし目標に至る道にもいろいろあり、いずれも極めて厳しいものばかりですので、叡知を集め、その中から最良の道を選ばなければならぬことは当然でありましょう。田辺開校は、すばらしい教育研究施設をもたらし、中心校地問題を一挙に解決するとともに将来に対する可能性を与えた点で、同志社大学の歴史の上でも画期的なことでありました。この大事業によりハード面が一応完成いたしました。それを活用するソフト面については、まさにこれからといえましょう。

ご承知のように同志社大学は、「一国の良心」ともいふべき人物を養成することを目的とし、キリスト教を徳育の基本とする教育を行う大学として設立されました。このような建学の精神は、全同志社人の誇りであり、それを継承し高揚していくのは私達あとに続くものの使命でもあります。このような観点から、建学の精神にたちかえり、キリスト教主義教育を常に見直していくことは極めて重要なことでありましょう。とくにキリスト教主義教育の場にふさわしい雰囲気やキャンパス内に充満させることにより、ここで学んだ学生諸君の心のどこかに、それが、いついつまでも生きていてほしいと念願しております。このための適切な条件整備がなされなければならないことはもちろんであります。

田辺開校にともなう二拠点化は、大学の教育・研究、財政、責任体制などの面で多くの問題をひ

きおこしました。直面する諸問題を十分配慮し、その解決に努力することはもちろんであります。しかし、ここ数年の教学と財政の施策が今後数十年にわたる同志社大学の浮沈を大きく左右するような状況のもとにあることを、私達は、まず認識すべきであります。学問や科学技術の急激な進歩、国際環境の変化、社会の大学に対するニーズの変化、昭和六十七年をピークとする十八歳人口の急増・急減とそれに続くいわゆる「大学氷河時代」の到来などは、旧態依然たる大学の体制を許容しないでしょうし、そのような状況下で改革のない大学が衰退していくことは火を見るよりも明らかであります。同志社大学の場合、これまで残念ながら中心校地問題などのため、思うような教学上の改革ができなかったように思われます。その上、田辺事業に伴う多額の借入金、今年度経常勘定における大きな赤字予算など、大学財政は極めてゆゆしい状態にあります。しかも大学は、これからの限られた期間内に教学上なんらかの新しい手を打たなければならないような厳しい状況下にあります。いたずらに悲観したり、消極的になったりすることは許されません。状況を冷静に見つめ、理性的で綿密な検討を行い、学内のコンセンサスを得たうえで、最良の方策を見いだし、それを確実に実行していくことが何よりも大切であると確信しております。なんとしても、この困難な状況を克服し、一日も早く明るい見通しのもてるようにしたいと願っております。

いずれにしても、このような困難な状況を克服していくには、人の和が最も大切であると思われましますので、教職員をはじめ、同志社にかかわりのある各位の温いご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

(同志社大学長)